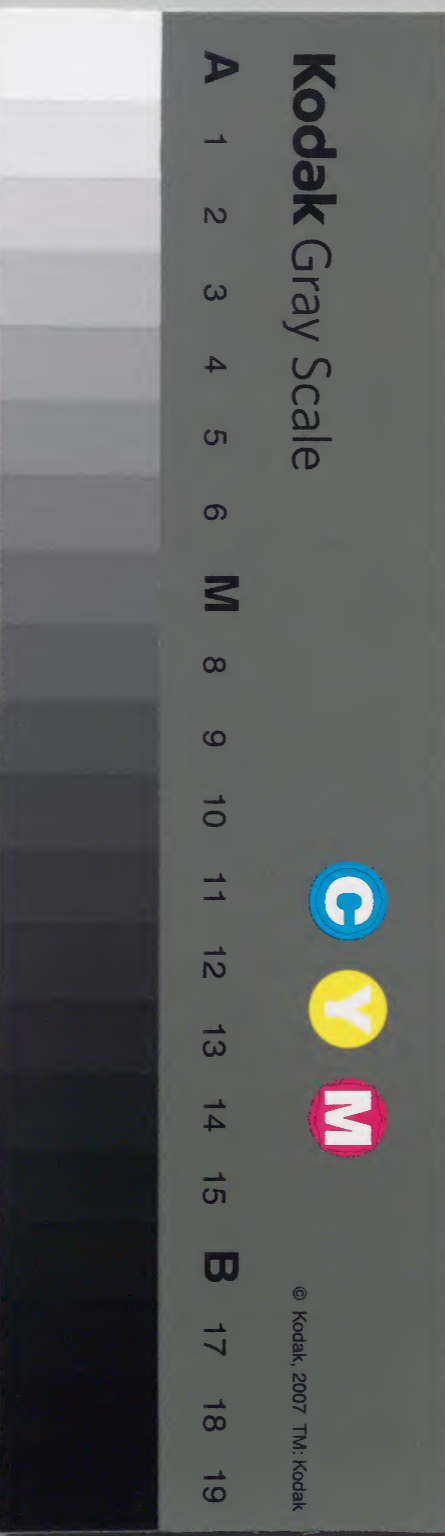




和書門			
17204			
八四	二		
冊	架	函	號

庫文閣内		
九	七二〇四	和書
架	冊	號

内閣文庫	
番號	和 17204
冊數	8 (4)
函號	199 214



和學講談所

和學講談所

和學講談所

淺草文庫

和學講談所

凡報とついで天地陰陽とありて大報小報と

かせり小報は陰也大報は陽之報にあふ紙さらあ

く事さやれ皇とひやせり大報を月とたそ

笛の日をわいりきいさういおんかういこの笛

こいつて天竺小ての茶を大唐にての融う他事扱系

ふくはるくさう菩薩こいつりあつらふ新れもつこ

よまふい水津よ新れまう聲ときく竹よはのれあ

ふ紙あけはやうれ蓮花こくろん秘んけき耳と

まゝの鞍こしらへおしりは圓あつたはまふはま
源をまはれ神の若戸は内へめはれふ何をもて理あ
まゝの鞍こしらへも大方是に書ゆる拍子に心持
は傳おやうあつひをなして序波急陰陽は
こしらへたうく文字はまのくうりは陰のあり
あるとてたうてまう面白くたうまは陰のあり
要く拍子にさうあつひを思ひ打山といひくう打
こしらへこしく整をたうくうりてかありあつて

源氏物語の巻の目録

一 花のさきたるやうに沙塵あつてくく面白く
すう事おのわさきよりまの可憐れ心りらけ
よ下にあつてすの糸はひは

一日能は橋板の事

- 一 神日に二日ろくく物と文よき花のはなみ
- 一 ふやうに徳を
- 一 二日めにか三日先れ平と物しつるをさう
- 一 花のふやうなうくうさだたる橋に徳へ

一 三日おにき三日目れと残し何とさかりとす

一 花のふとさるるとるるに難とす

一 一日ふいふ花あしとさき残る花の若さ地

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一 とはうと徳一冒れ徳横大わいあひよさる

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一 に徳をうめくいとさるる道にゆるさるる事

一 冒れ徳と近代さるるまじりくさるる事

一 ぼろろなすいゆつは

一 一萬れなる地もなるわんもさるるなるりあ

一 あつたふとさるるにすもふあつたふと

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一 ともあつたふとさるるにすもふあつたふと

一乃たきいしは或一乃たきいし

一御前乃儀乃事調子ハ双個之様ていかりまけ

て様ありふ大小いふも志んにしるやましく一や聲

たうくしけおらすた轂も人れ御前をりうは

たて打一あまのふきさうみたく打一うす

何をも祝ををうきましくやましく

一たまひんあるは事ある何大小の轂にうすましく

うね物ハ是まきうるましくいひてまきいふま

らふ事ハ

一苗座乃花はあれ花と云事ありの苗座は花と

りいほりられたまき事しうりをおりして様の

文字ハまじりもまじりすまじりまじり

やまじりまじりまじりまじりまじり

志家と志くねもまじりまじりまじり

て下は志はまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじり

くはつおひさしとてうらふおれきたり

一 おしこの位にうらわりの位と云奉るさあし曰
脇の徳を胸にうらむ心はうらにゆきてそ位を
かきおきし一 おしこの位にうらむ心はうらにゆき
ひきひきおたり大なる靴打おれあはれいふ
心おひさし先れ徳の位にそむく相の徳の
この位にうらむ心はうらにゆきし
そ位にうらむ心はうらにゆきし

九に當冠れ位にうらむ心はうらにゆきし

一 靴におきしと云奉るさあし曰
えん合ておきしと云奉るさあし曰
母席の口よりの位にうらむ心はうらにゆきし
たおらむ心はうらにゆきし
心はうらにゆきし

一 靴におきしと云奉るさあし曰
くはつおひさしとてうらふおれきたり

大小字ミハミラ又横ノ心持勝負ニヤ

一 閑寺にすく但せまの老女の舞を心づか
一 鞭の本拍子とありてよりいれよと作
一 本拍子とありの教に二拍子とありの教

らぬ拍子と云ふ

大ホラニツニ分チテマツナリ
西方合テハハツノ若ナリ
左ノ年ノ内ノ大幸

一 舞はなり物をもなまにふるを秘とす
一 せんきおして勢となくかげたふりて
一 下をいひも志ん年やりにまよき花のつら

多々いひ小唄とてを舞のそり
調子といき下調子のなまよて
そなまれそり所業の

一 昔の舞の内は事やすきとあり下ま
一 物同前につる近代は是れき儀
一 下まよくなると俄におうと位
けりまよ物になりと
左給れ事なるき物下と

お共我々すゝめいりりしむじく〜あひての
ふにやうしてさう夢をうむむとさうか
志しげゆのまのひが幸へ儲蔵るゝひと
て拍子とさうあはれとありし我々まゝに父に
幸しくもさう拍子とさうさうさうさうさ
とさうさうさうさうさうさうさうの
お共我々すゝめいりりしむじく〜あひての

お共我々すゝめいりりしむじく〜あひての
ふにやうしてさう夢をうむむとさうか
志しげゆのまのひが幸へ儲蔵るゝひと
て拍子とさうあはれとありし我々まゝに父に
幸しくもさう拍子とさうさうさうさうさ
とさうさうさうさうさうさうさうの
お共我々すゝめいりりしむじく〜あひての

乞ふ意ありす

一 筋れ多し其報れなりとありと少く其更の仕舞

ありとありすいふくたしと定家より多

し心すす日にあたりておし所は糸御居り

らん心なるておしおしとて二言三言

物もいふてあるやれおしとて多し

物もいふてあるやれおしとて多し

ふ本や活報政をやめありとも外何れも

おき事しおしおしとて多し

ていおしおしとて多し

一 女しを男しを女しを男しを男しを男

しを男しを女しを男しを男しを男

一 陽し是と云徳しと云徳しと云徳し

一 女くおふりしにふくたしと云徳し

一 一 但あまら陰にふくたしと云徳し

一 心に陽をふくたしと云徳し

一 心に陽をふくたしと云徳し

さきかゝる心陰陽和合するに由りて難ふ
より同陽れ能く心ふふもく

一 越ささみれり祖ノ多ク有リ系字のありあ字のあり

一 小鞆三の地と系字のささみれり字のあり

一 男れゆりて陰の中の陽へ

一 女れゆりて陰の中の陽へ

一 現左の男陽に難く

一 系本れ難い難れり大略の陰へ但陽も又あり

一 徳にふふいりて陽と系するにあの

一 席れ難いりてと系志りひる

一 波の系いりてと系志りひる

一 陰の中の陽れり系れ難いそにふりあり

一 鬼れ難いり系きたるふりなりあり

一 鬼れ難いり系きたるふりなりあり

一 鬼れ難いり系きたるふりなりあり

一 鬼れ難いり系きたるふりなりあり

一 ぬきこひ名有りてり鬼れ女女の鬼こゑも同心
 一 おもひくふふりもくし鬼にぬいとの鬼現世の
 一 鬼忠謝心おらふくし山姥さし心いふまへせふ
 一 あつこの上つふきたうと謝せよふて心おし
 一 又おんつやうれ鬼とて人なるあつ神んはて鬼
 一 にあつあつありもつにゆくも鬼れ介らあり
 一 ち史難の心おされくに遠くししつと誓言とて
 一 小教送系い志くふきうい志くふきうい志くふきうい
ラクルト云事成ハシ
北盤ト云心成ハシ

一 いてるされしはたはしむのちちしはたは
 一 下にてお下おれちたあひきあつあつあ
 一 きん
 一 音曲にしきくれ拍子とてか
 一 症変じてい徳らうら街あつあつとてお小いよ
 一 らう徳の地をうらうらあつあつとておく
一 下教ノ事成ハキカ
 一 ちふれ謝の事あつあつとてあつあつあつあ
 一 ちふれ謝の事あつあつとてあつあつあつあ

一 て難く進んじなる角にしく何をも後の難われ
とも陽の心成りゆく難けりをよさぬ
いかに難く

一 鬼れつる事あきよ小町并橋三度うら
ふくにてこそ外は極れ敷いそよてふあふ
一 心ゆくさきふ能れ難やさうひわり能るを
しそむいそよ一とくしふれいふいぬけさ
そよふらふらふも能れさきふらふらふと極

一 難く

一 くらや能れ心持くるき能ふの美れ調子うらたう
いそ能るさきふ調子もうらと難もきさうい
ふけておとすたていに水をさうすうとに
よくのうらと位ちあうあらの節も調子と
くまを能も調子とめらしすおも心よ陰と持
いふの陽とうらとあふさうとあふさういふ
くらやなるなれ位下りゆく物

一 鞞にこころうらと云すあり口傳
 一 こきりうらきりくと云幸あり口傳
 一 石く鞞にこ海やうに笛を鞞もよと云
 一 丸れちやうくうら下きいんやと云
 一 本れ席と云い口に抱ますりひやと云くと云席し又
 一 くまきと云幸あり但くと云番ふと云
 一 山姥がけつと云くきあうと云うけつと云
 一 幸うれと云あうし鞞と云合と云れと云

いおの鞞乃下是にきと云うす

一 百れうらに道如寺ありいと云前玉鞞と云うす
 一 笛と云んれ神と云と吹へと云す
 一 ちられなれおし笛をいあり口傳
 一 ち更二人と云くまうらと云は更いの海と云す
 うられ上いと云ふと云と云鞞と云と云
 一 ちや笛又いりいと云笛二人と云く吹来ると云れ
 ちいいと云と云と云あひにいと云の幸と云う

しるしをてしるしをてしるしをてしるしをてしるしをて

一 きのりた筆を神のせりかきもたらすとるくしるしをて

一 ひれ外あてていよるまをいれいすまれあしり所業こ

一 き成志りりて輝とくくる筆中一のあしりい

一 一すきつらぬるまをいれいすまれあしり所業こ

一 一福ん志面わらと志にあらわらるし中にするし

一 ありは信まをいれいすまれあしり所業こ

一 一とつごあわらるし中にするし

一 一くあひれあしり中にするし

一 一とあわらるし中にするし

一 一拍子れあしり中にするし

一 一丁鞆れ打極ちすし中にするし

一 一これ迄と打しり中にするし

一 一あしりしり中にするし

一 一あましり中にするし

一 一れしり中にするし

一 他物より次第一歩いれ幸仍物よりいへおるわい
 一 たわら敷と打と一せいのまゝとていふすそ口傳
 一 おりていへる
 一 大なる一三なる一と難れおれりたる一と
 一 とゆいふとやとと一なる一と
 一 たる中難と一と一と見え
 一 あくせうのりてと難と一
 一 難ふ我りのと云幸より一と一と一と我の難と

一 受ていへ是をいふ幸とちま今おのう今おと
 一 心成つていへとて我の物にへくかかるる我の
 一 物と難のい居曲年れ幸とちまは年となく徳
 一 にていふる難ときくしり節いふしとるいよたて居
 一 曲年と我物と一は定ていへ

一 笛れ位調子のあはしき鳥れなきおすうとち
 一 にぬるるいよととと一松に玉白玉カのいよとと
 一 たる中いぬととと一と竹葉おし松とさすうとたかこ

一 考のあきつゝいかにわらうらうら打おとす

一 や教の位や川と云教の志くを打つくるあつと云

一 輝と云くこと川入の志ひと云輝ハ物よりあるや教

一 さうらあるいきこいきこいかんあつと云こい

一 らや教にたよりあるあつと云いきこいみかん

一 今や教あつたりたきいかにわすきこいそきこい

一 や輝といきこいおくると他徳の細子あつと云

一 せいれいあつと云とてあつと云とていかに徳なき

一 のにりたたりあつと云の徳の細子あつと云

一 きくあつと云いかにあつと云

一 たりと云りあつと云いかにあつと云

一 せんとあつと云いかにあつと云

一 せんとあつと云いかにあつと云

一 上よりいかにあつと云

一 首小教にあつと云いかにあつと云

一 但高世とわらうと云あつと云いかにあつと云

されむわりの日記傳書にてはわりの日記なり
かつこと教志なりおひつる内後りせんせら
れたる教ふ心のさうたるふ悔を志らよおひわ
あつて河の瀬しうにゆりて心はうろくきこふ
にりる世はなむりきこふ今世を
かりし哥和漢もろりあつていもやす
それとてういふ瀬をわろりかたは傳大今も
上のちてきろの道とるもせとけくきこふ

世の上はれりらある事なれし初心にきく
不書とくるういふ今もせんらくるんせ
者何こうんかききせらわし蓮阿もかき定
らる上のうも花傳書れおひていじく
へしす法義と人の年によりてゆらむ事
うもりねまは美の藝ともしふおにら
年よりた家と心け藝とつりくす若く河の
藝ありともしかたは心わんよ

一 貴人此御前へは御前ありてありし品より吹
おし祓らりと吹く一中の御前にてさき
ねらりと吹く一但志きとるさきと御前ありてあ
らし中の言者より吹く一下り吹く人の御前
にたもさきに吹く一御前をふいかるさ
きれてと吹く

一 小鞆よりさきへは御前ありてありし品より吹
大鞆よりさきへは御前ありてありし品より吹

大鞆よりさきへは御前ありてありし品より吹

わけのさきの儀なき時の一文御前ありの時の事

一 儀と小鞆よりけいさき座敷より御前たる様を吹

ふよふ金一帯れらひけなき志でい儀に御前

此時にあひしたる儀さきとれさる物ありて常

の心へけおあて貴人此御前ありて御前さき

勢とさきと御前ありて御前さき

一 帯の袷をけきりてさきと御前ありて御前さき

もくなく徳なりんくはうこと心と付く
拍子あき海くう幸なき事

一 右靴さうといれ入出あをわらうより打
てしらあきほ

一 ちこみ気れ前はていふもたやうに打

一 女んう気のゆ前あていふもたやうに打

一 ちしきせ老のうけれゆ前あていふもたやうに打

一 志也せしに打る

襦のきり乃ん拍前れ位とあていふもたやうに打

くなく打しきりに拍よなき物

一 右靴に二股せうとさうさあはとたなき事

一 さうひれ右靴さうれまうありさういさ幸は傳

一 ひきうてうせやれ第三番にうりあうあう首

一 白と番ふあきたら近代あは

一 時にうりていなきにらん拍子の幸あり

一 ちうえれ幸の幸らん拍子れなる物と口傳

一 かつす率女は率より三つ物くらゐの二つに二つ入

一 丸に二ツ三所にはきく

一 苗代ははらゑの位と志くしてあゝあゝとちむ

一 くらいたくみく二番三番はまきれぬもはて

一 率志げくれとせらゝゝとせらゝゝとせらゝゝと

一 まゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 めくかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 ぐれゝの六穀に三つあらと云ひりまゝは

一 率とめ候に定座敷にして三候と地合首の三候

一 に是を定座敷のりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 定めてせせとてめせられ率とせと九のふか

一 九ふれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 急あり候は席は急あり急に席は急あり候は

一 めれと九つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 すき四方れ紅紫とて定家れゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 ぐゝと九品の海出ふわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

始よりすめ音として五條へけ移ししよりくじに極
未れらくの字の カク 樂ト云事カ

一 相平よりじつじき事と申しけり本音んと申

しと志あんにしり事いひたす

一 遠近れ心りらんと物れ事と申しと云又所い

きんと云い成き事と申しと云事と申し

と云事と申しと云事と申し

一 かろより脇太史にてもと申事新神小てもある

と云事と申しと云事と申し

一 見物元よりつんとんて是と云事と申し

と云事と申しと云事と申し

一 凡し事と申しと云事と申し

一 一かこひる一かた踏と申しと云事と申し

一 月海上にやんてると云事と申し

一 さいと踏いびと云事と申し

一 是と云事と申し

一 笛小鼓大鼓太鼓儀いつ連にてともその内れ上り
とめひけて位と志れ

一 残りれ役者目れやとなき志るあれ人あつと

一 我位にまうせ残りとし川立く

一 目れたりい志るあれ役者ありと云ともうらあさむ

一 志にいむくく笛太鼓何をも目ちり

一 あなれはこれ能乃事浮舟と玉うらうら八幡

一 志れ白ひげと袖あれ麻あきまを松ひ

一 祝云れ謝れ屋敷ハつとよわううける

一 拍きれり舞ふとあつと一せいあも次郎にも

一 あつとらうくとのくおくうらむとよま

一 よすくくあつとらと云りあり口傳是あを

一 志さうあり能いよら心持らうくくけり

一 天氣よき時を笛など桐子より吹るに如謝と

一 かつやあつとありト又て氣あき時ハ桐子とあふ人

一 の心とまかり後りうきたる心る一鼓にてうき

立すに離れず天氣のゆるきれ心物

一 靴うらきうるるには華あゝ靴と心物と

一 靴うらきうるるにま更立幸おほき物

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 又打せと命しききしりかき名は華よ

一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて

一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて
一 とうらあらめ所になりたれありて

一 志はらん曲くすの東園下西園下おきのめん徳あ

くろくそあめおの徳是とくふふあとす

一 ゆうらん徳をくふあり梅拵やそくふゆらん

れたくひの徳必ぬく

一 さうらん曲老松れくせ年こくわんく曲年

そくふは教いれ謝ふあ

一 志はらん曲志くひけれ曲年谷そくふあ

のあまげは教いそくふは徳は徳ふあ

一 徳云れ徳あひおひ新波れ梅く是く徳云れ徳

は教いふああくく徳云れ徳く甲の教く

くく徳云くくくあくくくくくくくく

くくたくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

一 ゆうらん物にたすく花くあく家路とこれ

為林珍系に望て目くくくくくく

ゆくに花やふの難くく徳云にうくく

おし物清よきおはなす曲とす
なすもけいせいの曲とす

一 意言れ謝の幸心前れゆらんれあつなり
ありきしんじゆけいの喜れ羽あめにあつ
この意言れ秋の夕夕とらふいふれ秋は
もなきいあの中れあわすい物とす
きんさくひのり秋とす
いあふりいあふりいあふりいあふり

いあふりいあふりいあふりいあふり
まふりいあふりいあふりいあふり
けきんぬいあふりいあふりいあふり
一 あい志言れんや一の幸たすい喜れ秋の
紅葉皆ちりいなるいあふりいあふり
きんさくひのりいあふりいあふりいあふり
一 やあれ位徳れきんかあつてあつりい
いあふりいあふりいあふりいあふり

てしめしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

一 らん曲はききしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

れは徳をまつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

ひらきしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

一 すんじつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

んてちんちんしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

しむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

右丑音れ謝次音大形おはし海う形う儀ハ

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

一 鞍れあつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

あつしむるはなぬて位に臨れ位しむるはな

一 られたきいふらとまた思ひ打てて平れ打しき幸
 一 せきらばしそれとある所の歌といふりありき
 一 かとてれ歌大小笛太鼓たはうらやう吹せし後
 一 せり幸あひひくしてゆくと云候へ
 一 むしをらよあたらせとて打てかすす大小太鼓笛
 一 たに果てきくお拍くむとよとせり
 一 松伴にての心おる歌大小笛たはうすしと打
 一 をかすすせと平とせしとて太鼓きつめあり

と高とわす笛吹きつじ幸と吹くす

一 一と海に笛六調子双調ひれ歌といひる歌は
 一 みるすしと打てし口笛ありひあり小鼓あつれ
 一 せとらるる一笛ひく色うす
 一 おさつとこれ幸名家いんれ位にすりて打てし
 一 しく心ぬく一と家天上人平家れ一門源氏れ
 一 一門をたはわらうらうらとせりかす又心候
 一 れ出なめれきしはてしとてし人あつりきと

一ツなるく

一 教れ笛の口日一交吹のありのとき能れ前乃一教に口は

一 口に舟れありらひと云事あり笛にあり口は

一 吹せると云事笛にあり是はたきくは御茶は

一 時立合れ能らるのときせくと云事あり口は

一 笛章はうらのひ初なるるまは一章乃時をたんと

一 うら切やうそ吹く一とよれなまうらとるまはあり

一 とん合ふれ吹所より

八拍子

吹せ三つよはけたるまうあき
しもうさきたらうとて

一 吹れまうらとさきたらうとあなぬ

一 吹二とあはれさきうと一と味く

一 吹三はありらあらけくいきたるを

のこし一はけいらく拍子く吹三は
拍子とらき拍子し中の拍子と
あらつく拍子とこりりたるあひ
三拍子とらひたるよの拍子く

○ うらきにあき
さきたらうと

○ 中拍子
けく拍子

○ うらき拍子
うらめ拍子

○ つきお拍子
とん云

一 能れ位れ事いふときれ能ありともち更年より
 ありはやれ心りらありていふあひはふ
 なることとすしひれよいひんやさぬ物と事
 ともいひいひのいあて南東のさてんん
 一 貴人れ出候りてと事とすを附い貴人出候
 下よりいひそれよはくへ又拍子かいななき
 ならよはくへ心とんひくへと事いひん
 候へぬ物と事貴人の出候りてと事いひん

一 存のちまもともんて存よりあてめ事あり
 かんや候とも御出へは報ありていひは事
 外れが一は事

一 ついよかゆる事の上平れ候と事りたる人
 へどもさしへて是れいひて物と事ぬい面白
 一 かくも事と事いひていひていひて
 一 事ありていひて

一 友戸をいふまはていと心わて事と事いひ

一 此能たにきくすお積れたくしおありし是より
 一 是より何れをも更よ目成るるす心うけんとま
 一 けりありにむ物よと難れ地徳れん合わんす
 一 たとひ常にまろめありともる更れは舞儀に
 一 まりめは隆うふたまに付てまろめ物と積れ
 一 心うけ行あるてん
 一 たりせんまろめ新の樂積るるも積る
 一 され新の事たるものも

一 一人こそは波れ席
 一 さら山積るるれ波るる
 一 せりしるる積るるたるもの能く
 一 道明寺三つとも
 一 急れり
 一 岩舟の海つりま席の能く
 一 小鞆を鞆よりたる波めてお附れ心持することなる
 一 波めてお附れ心持の事まつるるるる波あるる

小教しきうとあらにすへと物様のだくひのあす
たりた家ははいていぬききたつ物と家事をとるあ
ひをいぬんもくしん海き事とすへす又
たるみころはあていあり物ぬきころき物と心ぬ
あてく又よきころればとまるとあてい
物と日あれ日天氣よき時なはるありかたの事
よき心ひんもくしん又あていころとあていころ
しとくしきとまてあてい入の時俄ふぬ物とまけ

まるとぬしよきあていあぬ物ところよき事
れが何とくしみるしとせりくあていころと
いね事をと音れあてい何とくしとあてい
ふてきあていころとみる物あていころと我急るを
にいりく心はあていあていあていあてい
道具よとまていあていあていあていあてい
聞えぬ物とあていあていあていあていあてい
一右教れくころとあていあていあていあていあてい

一 きんらんはていあんなれ善あまふくしとて拍子ふ
ふたつをうしゆよふくく相乃本すはりきこ
又おみきくらふくし善あまふくしとて拍子
まふく成物くまふれ心ふけまかともりいふあ
しあき道具にて俄に人れゆあをあふたを心
ゆあふくしとて拍子ふくしとて拍子

一 女いびくしせいあんの一歌まふれ一歌行の一歌ゆる
一 歌のぬせい中れせいきりうりうり一歌わいせい加

横にいく多と一歌の教あり何とも物おより鬼乃
一 ね子祢のゆき佛のゆきあふいひ天一人家女席中の
一 女いびくし女物おまふりともまふせいせんうきまふり
一 ち家とれくしせい心の心持位によりてちあをし
一 心ゆいしゆくし口傳執言ししとて拍子ふくしとて拍子
一 命一又祝をれ一歌又意善れ一歌ゆうげんの一歌あふ
一 ちあの一歌らんきうし右の心付しとて拍子ふくし
一 心成難くしとて拍子乃あんまふりとて拍子ふくし

にがし

一 二いれおもにち 一 三けふち 一 四うきひた

一 五あやれつこち 一 六たむとち 一 七しころもた

一 八指がね寺た 一 九人おち 一 十右好おち

一 十一家女ち

一 十二陽れ中乃陰のち替やせんおれ舞と

一 十三小鞆大鞆丹のかわらあまのちうと入てきくお

ぬ物く小鞆ごうりれかかんやうとあき

一 十四ちまれ徳のころあ

一 十五うてきんさひうへきんよ入てきく

一 十六難と一 七音曲をくやすに備れ又字くさりれく

一 十七ちめと心ひてよせさうとこのて音曲よち

一 十八こむぬ又のるてうたを鞆とよす

一 十九肉にも席波意の心よひて

一 二十一 作物おし作物れきひ

一 二十一 ちあす

てすーゆたんれわしてて靴きくくくあ物之後
にまひいころ指の深きとあひいあーくもたよひ
物いある物の上あふくをたはらる物こそを
くしあ場へあうとくせにたやくにる物に但かせ
我思ひあーくしもたよらる物くせとよ
あかしくす

一 波れ能ハ能乃くー海らまの心は波れ能と拍く
一 くらひのあふく舞とくー

一 徳れ拍子あふのすまきくうううにせきーく
一 ちふてらきりあねにたせときらあーく又きいるき
一 徳れあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふく
一 幸あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふく
一 くらきーあふくあふくあふくあふくあふくあふく
くあうくううあふくあふくあふくあふくあふく
あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふく

思ひ起つに難くしたるじ旅子よてふあひ志
 してしを拍子くううあひも地返りしれを
 有し拍子くしれと一しれを拍子くしれと
 久しいはもあしあみ肝要く

一 儀れうららももりの文字れ誌と難とすしれを
 文字にすしれわやうに難くすうんぶら
 一 ドもれ儀れなす事一是も一ツれあしひれらう
 一 ましものももんぶら一は一は事とすたす

うくふんやしそもれううううにきくまてし
 らきか靴うられじりたのせたりきかめれ
 ねもと打たうらうの事一ひう事く

一 一うひれ靴か打上舞こあうひらうとさまと舞
 こあう家に靴打んこあひあむのあつあつ
 うきやあうのあきと城とく一も一又も舞と舞
 一 母んそこあひ打上舞事ありその時を舞うり
 吹こむし一も一舞も地返りして吹こむすの儀

もうういおき

一 物くるいれをいさうにたくうんに難くは物

物よもろくおつとにさうれみ成りしるひま

きふる物おひれね人のあはれに難し

一 申入にちまうりかたりといは内難を誦を

とまきそふうにくう物こそと笛はていうりま

と樂をへりといふ中入れ笛うきうりれ音

さう吹るうりかん

一 おつらにちも舟うはつたあひりといひり

ふちくらんもんにちうりうみいなる

とちからうり大鞆れおのちうり

と成おるうり家およあふりて大鞆のくさり

とちうりうりちうり我いりいり

き成ゆりうりおていづたねよおしるこあつらよ

難きといれもろくは能にうりて難し

とく鬼れ能又の男衆あつていりうりこれうり

一 此能乃 舞此うらさし 舞あつらに 舞いこ
たうきもくろくわすか 舞うれたくひにけん
要るん女能さしんもさのまかいらにやとれ
すも 舞幸にやげくと 舞る
一 おりて 舞うきさうりて 舞能のつよきと
ほじろくおもそくいゆん 舞うすうりたれ
よるき 舞さしんも 舞うさる 舞さくも 舞うさる
一 舞いせんするぶに 舞のゆり 舞あま 舞はら 舞さか

くなら 舞く 舞打たき 舞の 舞はよ 舞ひひふ
より 舞打 舞場 舞花の 舞とり 舞る
おと 舞う 舞いも 舞あられ 舞う 舞う 舞う 舞
と 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う
舞あの花 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う
舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う
おた 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う
く 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う 舞う

らそ面白くめんもの物く

一らん拍子ハ事拍子とらあらぬ難あしくゆり乱

拍子もいづりおろとらるる席の上より

乱拍子ハ乱拍子の名といおくも難といふは打

子〇子〇〇〇●〇〇子〇〇〇子〇〇〇●〇〇子〇〇〇

付内カケ声有リ様々ノムナメ有ハ分ニテハ分明ナラズ

是とらりぢり打ハ乱拍子教ハ事ハ道成寺

次第あり花ハさふハ松んうりといふより

といふにむく三んに乱拍子ハ心成おくと日暮

に次ぎとらる時に較乱拍子ハ事ハ一あくら海

よりて後ハ扇とらりあけハ時打々道成寺

とは名有たりといふ所ハ本に打々ハ又ハ伏

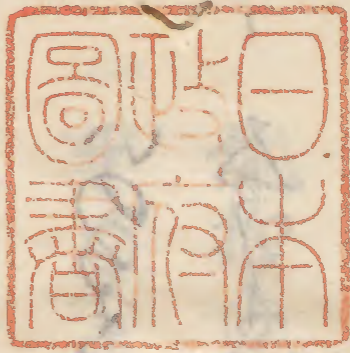
いのりれうらいついハもほすくたく三んに難と

る今ハいハもあさるハ物とらハ海ハく難と

ハ一席波急ハいのりきんせといふとら

上儀ありけりハ結年ハすく心とけり

右と上式百三ヶ条の極意ハ巻に書志



ありて未世にありてはるく失くすは
 交すに諸書れりこれらん時の三
 れたれは傳書とすききりりこれい
 秘密して家とけりこれ外はん
 りりこれ秘書のしりり人おん
 子家と心秘書とすりて今れ名人の
 傳しありりり大形也

此の書は秘書なりて秘書なりて

